

バイオインフォマティクスによる 水棲動物の進化と生態

吉田真明 准教授

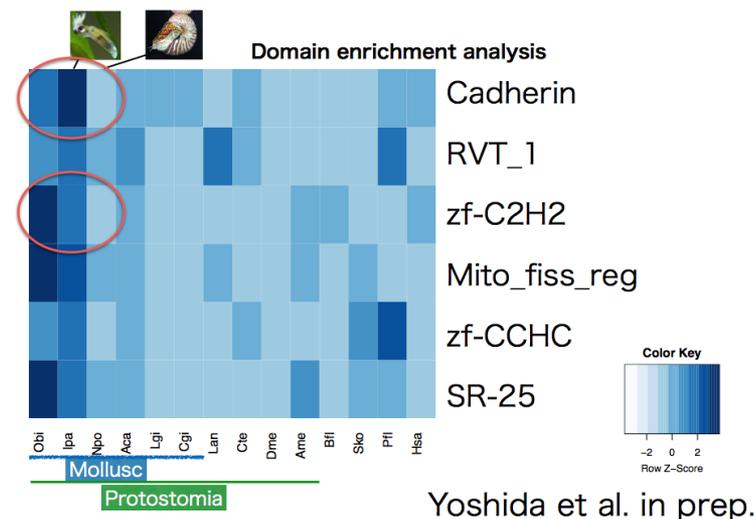
(島根大学生物資源科学部
附属生物資源教育研究センター隠岐臨海実験所)

日時：2017年11月21日（火）17:00～18:00

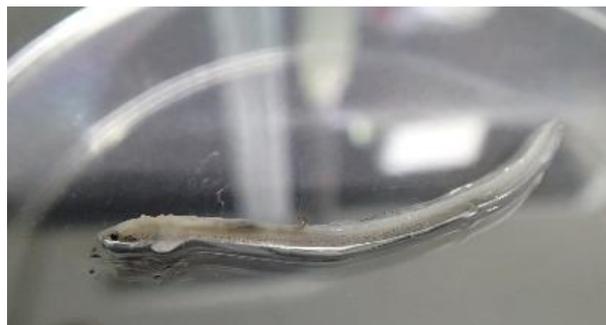
場所：島根大学エスチュアリ研究センター2階セミナー室

バイオインフォマティクス（生命情報学）はゲノムプロジェクトと共に発展した分野で、コンピュータを用いて大量情報として生物学を扱う。これは生物の設計図であるゲノムDNA解読と相性がよく、重要な生命現象の機構を次々と解明してきた。さらに次世代シーケンス技術の目覚ましい発達により、従来より高速かつ低コストに遺伝子情報が得られるようになり、ゲノム科学は大きな転換点を迎えている。研究室単位でも動物の全ゲノム解析ができる時代がすぐそこまで来ていると言って良く、モデル生物種以外の研究者にとっては福音である。これまでに行ってきた、ヒメイカ *Idiosepius paradoxus* ゲノムプロジェクトについて、頭足類学におけるゲノム科学の先端の取り組みを紹介したい。

合わせて、バクテリアゲノム解析・胃内容解析・環境DNA解析など、次世代シーケンス技術を用いた隠岐臨海実験所の新たな取り組みについても紹介する。



比較ゲノム解析によるイカ特異的遺伝子の抽出



島根県産ニホンウナギシラスの胃内容DNA解析